

株式会社 エフベーカーリーコーポレーション

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年7月1日～ 2024 年6月30日)



作成日： 2024 年 9 月 1 日
更新日： 2024 年 11 月 29 日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
工場取組紹介	10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11



環境経営方針

＜環境経営理念＞

当社はフジパングループの一員として、品質のよいおいしい商品を一生懸命につくり、真心を込めてお客様にお届けすると同時に、本業であるパンの生産を通じて、製品及びサービスに係る環境影響を常に意識し、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

安全・安心な商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

＜環境保全への行動指針＞

- 1．食品廃棄物の削減として、製品歩留まりの向上、原材料のロス削減に努めます。
また、食品リサイクル率の向上に努めます。
- 2．使用エネルギー削減により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3．適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 4．洗浄剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
- 5．環境関連の法律・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます
- 6．地域の環境活動に積極的に参加し、地域への貢献とコミュニケーションを図ります。
- 7．エコアクション21を全社活動とし、全従業員に周知徹底するとともに、活動結果について環境経営レポートと通じ、社外にも公表致します。

制定日：2019年4月19日

改定日：2022年8月24日

代表取締役 **中島 好夫**

□組織の概要

更新日：2024年7月5日

(1) 名称及び代表者名

株式会社 エフベーカリーコーポレーション
代表取締役 中島 好夫

(2) 所在地

本社・大阪工場 大阪市西淀川区中島2丁目4番16号
名古屋工場 愛知春日井市明知町頓明1423-26
広島工場 広島県東広島市志和流通1-30
兵庫工場 兵庫県小野市匠台61番地
滋賀工場 滋賀県犬上郡多賀町多賀252-2
岡山工場 岡山県加賀郡吉備中央町加茂市場2100

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 石川 稔哉 TEL：0867-35-9711
担当者 施設部 加地 正英 TEL：06-6478-0211

(4) 事業内容

製パン製造業（コンビニエンス向け焼きたてパン製造）

(5) 事業の規模

売上高		247.6 億円 2023年度（2023年7月1日～2024年6月30日）実績			
		本社・大阪工場	名古屋工場	広島工場	
従業員	名	450 名	290 名	129 名	
延べ床面積	m ²	19,565.35 m ²	16,265.00 m ²	4,643.48 m ²	
		兵庫工場	滋賀工場	岡山工場	合計
従業員	名	237 名	204 名	199 名	1,509 名
延べ床面積	m ²	11,631.00 m ²	13,654.00 m ²	16,141.00 m ²	81,899.83 m ²

(6) 事業年度

7 月 1 日 ～ 6 月 30 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社 エフベーカリーコーポレーション
対象事業所：本社・大阪工場
名古屋工場
広島工場
兵庫工場
滋賀工場
岡山工場

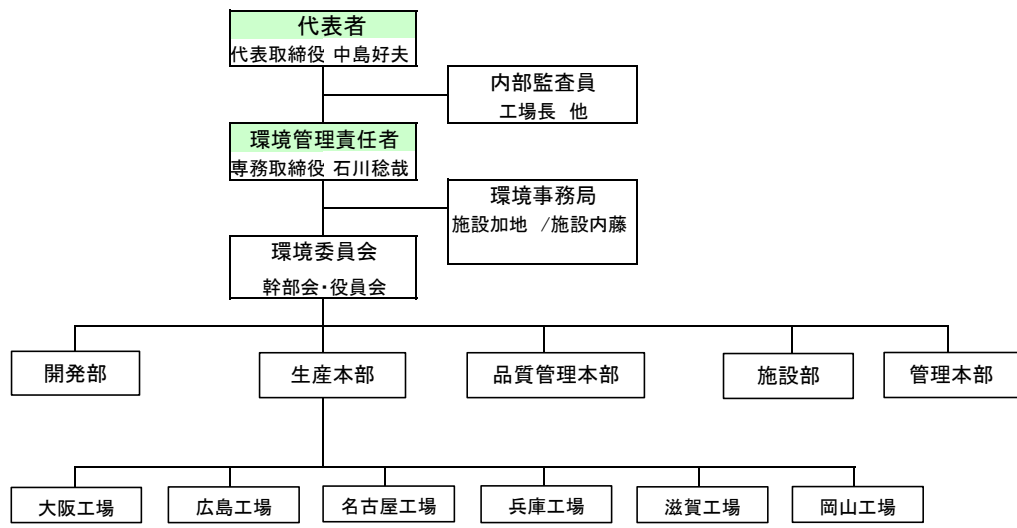
対象外：

活動：製パン製造業（コンビニエンス向け焼きたてパン製造）

□事業や製品（商品）の紹介

原材料や製法にこだわったパンのおいしさをお客様へお届けしたい。そんな想いから生まれた「セブン-イレブンのオリジナルパン」。それは、セブン-イレブン・ジャパン様がオリジナルパン事業を展開するにあたり、他のコンビニエンスチェーンとの差別化を図るため、製造してから少しでも早くお店に商品を並べられるよう、1日2回、年中いつでもオリジナルのパンをお客様へお届けすることを目的として、創り上げられたシステムです。

株式会社 エフベーカリーコーポレーション は、セブン-イレブン・ジャパン様の「オリジナルパン」への想いをお客様へお届けするための橋渡しとして、「安全・安心・品質」にこだわり、たくさんの人に喜ばれるよう毎日フレッシュなおいしいパンを提供しています。



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	30,228,862	27,873,988	26,960,737
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	562	454	423
産業廃棄物排出量	t	2,989	2,575	1,299
食品廃棄物				
発生量	t	1,933	1,736	1,655
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		1,933	1,736	1,655
熱回収量		0	0	0
減量量		0	0	0
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100%
水使用量	m ³	379,335	352,137	340,731

※二酸化炭素排出係数 0.351 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数（全拠点共通）

□環境経営目標及びその実績

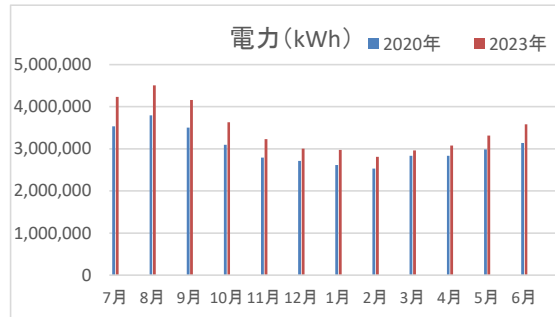
年 度		基準値	2023年		評価	2024年	2025年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	12,736,395	12,354,304	14,564,843	×	12,226,940	12,099,576
	基準年度比	2020年	97%	114%		96%	95%
	原単位 kg-CO ₂ /個	0.025	0.024	0.032	×	0.024	0.024
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	15,169,004	14,713,933	8,521,214	○	14,562,243	14,410,553
	基準年度比	2020年	97%	56%		96%	95%
	原単位 kg-CO ₂ /個	0.035	0.034	0.022	○	0.033	0.033
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	3,986,033	3,866,452	3,824,227	○	3,826,591	3,786,731
	基準年度比	2020年	97%	96%		96%	95%
	原単位 kg-CO ₂ /個	0.008	0.008	0.008	×	0.008	0.008
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	30,499	29,584	50,454	×	29,279	28,974
	基準年度比	2020年	97%	165%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	31,921,930	30,964,272	26,960,737	○	30,645,053	26,539,103
一般廃棄物の削減	t	593	575	423	○	569	563
	基準年度比	2020年	97%	71%		96%	95%
廃プラの削減	t	1,556	1,509	1,018	○	1,493	1,478
	基準年度比	2020年	97%	65%		96%	95%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標		100%	100%	○	100%	100%
	食リ法目標		80%	80%	○		
水道水の削減	m ³	392,651	380,871	340,731	○	376,945	373,018
	基準年度比	2020年	97%	87%		96%	95%
	原単位 m ³ /個	0.0004086	0.0003963	0.0003780	○	0.0003922	0.0003882
化学物質の適正管理	行動目標（次項による）						
環境に配慮した生産活動	行動目標（次項による）						

口環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

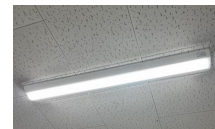
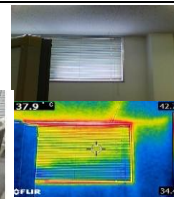
数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	
照明のLED化 全照明のLED化100%	0	照明のLED化率が6月末時点、6工場で94.7%達成。名古屋、兵庫では、100%到達。また岡山の太陽発電設備の導入、大阪の排水処理ブローを省エネタイプへ更新、その他、滋賀、名古屋等、積極的な設備投資と改善により大阪の特高更新により基準年比300%超過している中、FBC全体で114%に抑えることができた。次回より基準年を変更するが、取組を強化していく
圧縮空気の漏れ改善	0	
室外機の洗浄	0	
生産工程の集約	0	
排水処理ブロー更新	0	

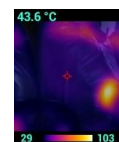
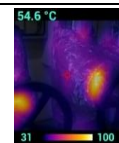
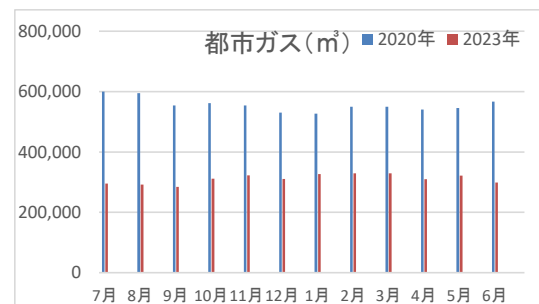


取組紹介欄



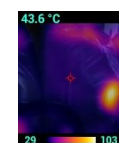
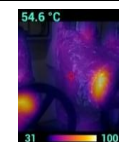
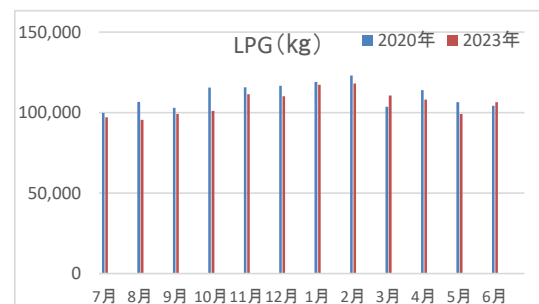
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	3,532,121	3,796,153	3,506,508	3,097,045	2,792,070	2,710,517	2,618,670	2,533,326	2,835,629	2,835,629	2,984,361	3,141,435
2023年	4,234,251	4,505,748	4,163,594	3,632,912	3,232,879	3,002,699	2,975,057	2,807,469	2,963,250	3,080,109	3,313,523	3,583,788

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	
ボイラーの空気比の適正管理	○	内箱洗浄機の廃熱回収装置の設置、ボイラーの廃熱回収による給水温度昇温等、燃料使用削減に向けて、積極的な設備投資による改善を実施することができた上、投資だけではなく生産工程を見直すことによる設備停止など、施設担当者だけでなく、製造担当者も積極的に削減に向けて行動し、改善することができた。今後も連携
生産工程の集約・短縮	○	
ボイラー給水温度の上昇（廃熱利用）	○	
エコジャケットの設置	○	



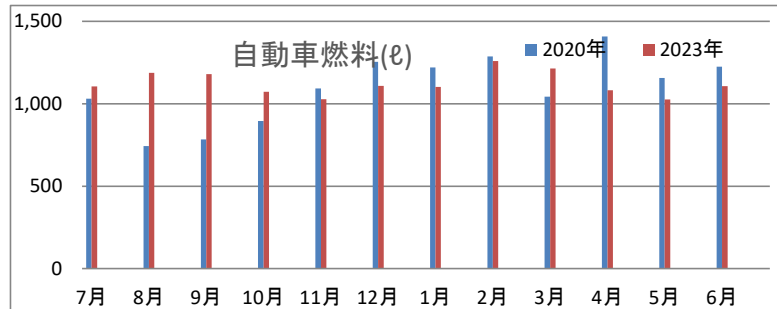
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	600,167	594,522	554,167	561,811	553,796	530,255	526,569	549,832	549,832	540,822	545,526	567,139
2023年	295,295	291,846	283,931	311,157	322,096	310,263	327,056	329,085	329,085	310,013	321,455	298,638

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	
温水温度の適正化	○	蒸気ドレンの廃熱を熱交換してボイラーの給水温度を上昇させる装置を名古屋同様に岡山も設置をして燃料削減の効果があつたが、停電工事時のスチームトラップの不具合が複数個あり、修繕に時間を要した。その状況でも基準年比で96%目標は達成できたので、引き続き、対策を継続していく。
スチームトラップの点検	○	
管末トラップをオリフィスに変更	○	
生産工程の待機時間短縮	○	



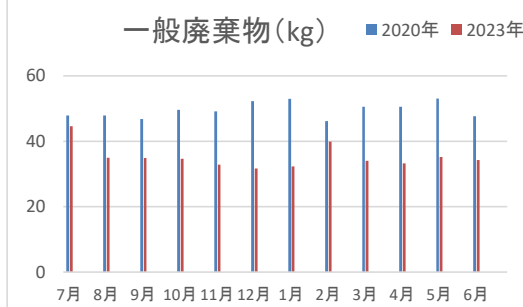
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	99,750	106,700	103,030	115,570	115,760	116,690	119,060	122,960	103,670	113,880	106,470	104,270
2023年	97,070	95,570	99,130	101,060	111,350	110,170	117,250	118,050	110,620	108,120	99,090	106,430

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	社用車主な用途は従業員の送迎で、岡山は人数の増加により送迎回数も増加傾向にあり、現状改善するには、困難な状況にあるが、今後、岡山の社用車1台の納品の予定があり、優先的に使用する様検討する。また会議の積極的にZOOMを活用して、車の使用を抑える等、対策を講じていく
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで運行	○	
・省エネ運転（急発進、急ブレーキの回避）	○	

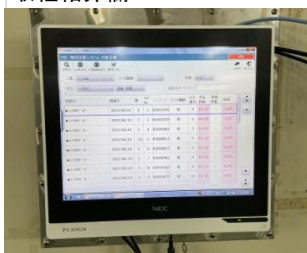


	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	1,030	743	783	896	1,093	1,254	1,219	1,287	1,042	1,408	1,157	1,225
2023年	1,106	1,187	1,180	1,072	1,028	1,108	1,102	1,259	1,214	1,082	1,025	1,106

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	焼成支援システム、カミナシ等、DXの推進や、新規従業員に対する教育の両面を実施することにより、目標達成が来ている状況。今後も引く続き強化していく。
・分別の徹底	○	
・裏紙利用の徹底	△	
・事務所ゴミ削減	△	
・廃ダンボールのリサイクル化	○	

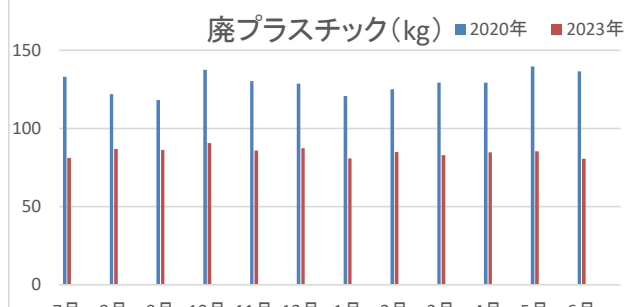


取組紹介欄



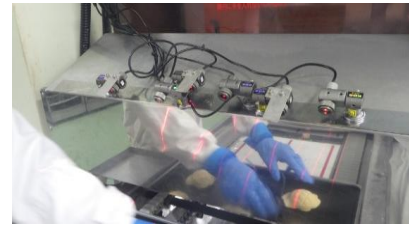
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	48	48	47	50	49	52	53	46	51	51	53	48
2023年	45	35	35	35	33	32	32	40	34	33	35	34

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	ビニールレス化の実施や、包材在庫管理、小集団活動による包装機ロスの削減など、様々な視点から廃プラ削減に対する取り組みが行われている。ご指摘ゼロ目標、ロスの削減に取り組むことにより、廃プラの削減に繋がっている。全従業員で、継続して行っていく。
・包材発注量の精度アップ	△	
・包装不良の削減	△	
・分別の徹底	○	
・再資源化先の開拓	△	

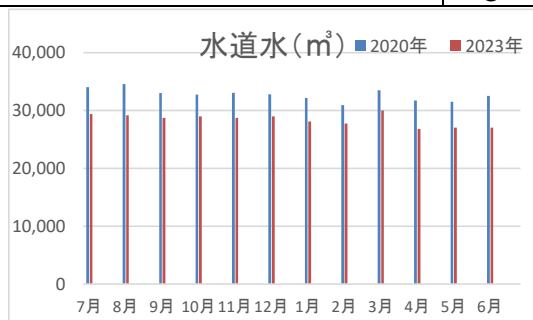


	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	133	122	118	137	130	129	121	125	129	129	140	136
2023年	81	87	86	91	86	87	81	85	83	85	85	81

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	小集団活動、工業化会議、製造者会議を通じて、省人化やロスの削減に取組み、発生抑制につながっている。特に小集団活動は、雇用形態の垣根を超えて、働く環境を変えようと実際、作業されている方も参加して、活動を行っているので、より削減効果もある考えられる。全員で活動する強みを生かし今後も継続していく。
・原材料発注量の精度アップ	○	
・加工ロスの削減	○	
予備数の削減	○	



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全工場、日々の水量点検を実施して、原因と改善、対策を行うが、毎月実施している施設担当者会議でも内容を確認し、工場単位ではなく全体で対策を講じてきた結果目標をクリアできた。引き続き実施していく。
節水弁の取付	○	
洗浄時の水の放流	○	
	○	



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2020年	34,056	34,568	33,034	32,771	33,075	32,787	32,191	30,917	33,503	31,721	31,511	32,517
2023年	29,382	29,169	28,718	28,973	28,720	28,974	28,100	27,739	30,021	26,822	27,055	27,058

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの実施	○	アルカリイオン水生成機を使用して、アルカリイオン水で清掃することによりマジックリンの使用量は削減できているが、洗剤プラスケアN1からサニタスターN1に変更になっているので、代替品の選定を検討する。
・取扱い手順・ラベルの表示	○	
・取扱い手順の見直し	○	
・代替物質の検討	○	

グリーン購入への取組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・事務消耗品のグリーン購入推進	×	グリーン購入の呼びかけの不足と価格が優先されることが多いので、環境担当者から、情報の共有と積極的な購入を呼びかける
・外国人実習生生活備品のグリーン購入推進	×	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・不良率低減（前期比99%）	○	毎月開催している幹部会議、部門担当者会議で決定したことや情報を共有し、問題に対して対策を講じる方法で、目標を達成していく。
・稼働率向上（前期比99%）	△	
・顧客ご指摘削減（ゼロ）	○	
・燃費の良い自動車	×	

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・事業継続のための人材確保	○	売上拡大は、商品力のUP、人材確保は、特定技能・実習生を増やし、充実した教育活動を継続していく。また安全安心な職場環境を構築していく。
・新製品・商品開発	△	
・働き方改革（有給休暇5日／年取得100%）	○	
・人材育成、教育、研修	○	

【電力による二酸化炭素削減取組】



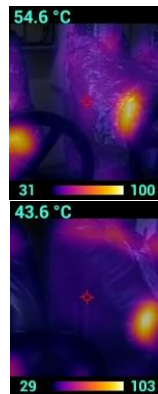
照明のLED化



シャネット取付



【燃料による二酸化炭素削減取組】



エコジャケットによる断熱効果

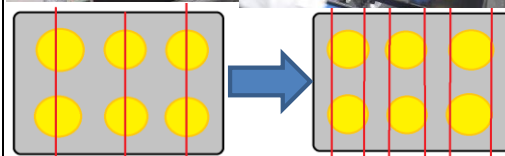


排熱利用による
燃焼使用量削減

【一般廃棄物の削減取組】



【食品廃棄物発生抑制への取組】



生産設備更新、機器製作による廃棄物発生抑制

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油等）
食品リサイクル法	食品廃棄物（多量発生事業者定期報告義務）
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	洗浄設備
下水道法	除害施設
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所
食品衛生法	飲食に起因する衛生上の危害の発生

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

外部からの環境上の苦情・要請等

本社及び各工場の責任者に電話確認の結果、社外からの環境に関連する苦情や要請等は、ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年9月1日

当社は、私たちの企業活動そのものがCSRであるという考えのもと、食糧資源や地下資源を大切に使い、豊かな自然環境を将来の世代へ継承することを責務と考え、環境負荷の低減に全社一丸となって取り組んでまいります。製造現場におけるムダを削減し環境負荷を低減する環境経営の取り組みこそが、経営力の向上に繋がると考えております。

2021年7月からエコアクション21「環境経営システム」の取り組みを開始してから2年が経過しました。明確な成果はまだ少なく、目標値に達しない項目も多々ありますが、生産の現場では節電・節水等の省エネに対する取り組みはもちろんのこと、日頃から取り組んでいるロスの削減も環境負荷の改善に大きく関わることへの理解が深まりつつあります。環境経営システムの導入による「見える化」で、目標と成果が従業員にも明確に伝わり、目標達成に向けた行動の変化が感じ取れます。

今後も引き続き、環境経営方針、環境経営理念、環境経営目標・経営計画の周知徹底を進め、従業員全員参加の下、環境意識の更なる向上を図り、環境負荷改善の目標を達成するための活動を実践いたします。

また大阪工場の特高化に伴い、電力が増加し、燃料が減少した為、基準年度を2020年度から前年度対比に変更し、より活動結果が明確になる様、変更いたします。

- 環境経営方針

☒ 変更なし

☐ 変更あり
- 環境経営目標・計画

☐ 変更なし

☒ 変更あり
- 実施体制他

☒ 変更なし

☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介



小集団活動



分別の強化



油流出訓練